

令和6年2月19日

大臣官房参事官（イノベーション）

「第11回ロボット大賞」の募集を開始！

～ 未来を拓くロボット技術の積極的なご応募をお待ちしています ～

国土交通省では、総務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、（一社）日本機械工業連合会との共催により、「第11回ロボット大賞」の募集を本日より開始します。

■ 概要

「ロボット大賞」は、我が国のロボット技術の革新と用途拡大及び需要の喚起を促すため、活躍したロボットの中から市場創出への貢献度や期待度が高いロボット、ロボットに関連するビジネス・社会実装、要素技術、研究開発及び人材育成の取組等を実施した企業等を表彰します。

■ 募集概要

応募のあったロボット等について、一次審査（書類審査）と二次審査（現地調査、プレゼンテーション審査）を行い、国土交通大臣賞などの各賞の授賞対象を決定します。

<部門>

- (A) ビジネス・社会実装部門
- (B) ロボット応用システム部門
- (C) ロボット部門
- (D) 要素技術部門
- (E) 高度 ICT 基盤技術部門
- (F) 研究開発部門
- (G) 人材育成部門

<分野>

- ① ものづくり分野
- ② サービス分野
- ③ ICT 利活用分野
- ④ 介護・医療・健康分野
- ⑤ 社会インフラ・災害対応・消防分野
- ⑥ 農林水産業・食品産業分野

各賞の応募要件、応募方法などの詳細については、公式ウェブサイトをご覧ください。

・公式ウェブサイト <http://www.robotaward.jp>

■ 今後のスケジュール

- | | |
|----------|---------|
| 2月19日(月) | 応募受付開始 |
| 4月12日(金) | 応募締切 |
| 9月18日(水) | 表彰式(予定) |

■ [参考] 第10回(前回:令和4年)の国土交通大臣賞受賞技術

技術名: 切羽作業を機械化する山岳トンネル施工ロボット

受賞者: 大成建設株式会社、前田建設工業株式会社、古河ロックドリル株式会社、マック株式会社

https://www.mlit.go.jp/report/press/sogo15_hh_000342.html

<問い合わせ先>

国土交通省大臣官房参事官（イノベーション） 施工企画室 課長補佐 林、係員 永井
TEL : 03-5253-8111 (内線 22432, 22433) 03-5253-8286(直通)



「第11回 ロボット大賞」

の募集を開始いたします!!

優れたロボット
を表彰します

「ロボット大賞」は、我が国のロボット技術の革新と用途拡大及び需要の喚起を促すため、活躍したロボットの中から市場創出への貢献度や期待度が高いロボット、ロボットに関連するビジネス・社会実装、要素技術、研究開発及び人材育成を表彰する制度です。

2月19日から
募集開始!

第11回ロボット大賞 募集要項

表彰位

大臣賞

(経済産業大臣賞/総務大臣賞/文部科学大臣賞/厚生労働大臣賞/農林水産大臣賞/国土交通大臣賞)

全応募のうちそれぞれの大臣が行う政策上の観点から、最も優秀であると認められるロボット等に対して各大臣賞を授与します。

中小・ベンチャー企業賞

(中小企業庁長官賞)

中小企業及びベンチャーからの応募のうち特に優秀であると認められるロボット等に対して中小企業庁長官賞を授与します。

日本機械工業連合会会長賞

ロボット産業の振興において特に優れたロボット等に対して日本機械工業連合会会長賞を授与します。

優秀賞

各部門及び各分野において特に優秀であると認められるロボット等に対して優秀賞を授与します。

審査員特別賞

上記の他に、表彰に値するロボット等に審査員特別賞を授与することがあります。

部門

ビジネス・社会実装部門

ロボット応用システム部門

ロボット部門

要素技術部門

高度ICT基盤技術部門

研究開発部門

人材育成部門

分野

農
林
水
産
業
・
食
品
産
業
分
野
社
会
イ
ン
フ
ラ
・
災
害
対
応
・
消
防
分
野
介
護
・
医
療
・
健
康
分
野
I
C
T
利
活
用
分
野
サ
ー
ビ
ス
分
野
も
の
づ
く
り
分
野

応募のポイント

ポイント1:既に市場実績のあるロボットのみでなく、研究開発段階のものであっても近い将来社会で活躍できる期待のあるロボットは募集の対象となります。
ポイント2:ロボットメーカーのみでなく、ロボットユーザー、ロボットシステムインテグレータもビジネス・社会実装部門などで応募が可能です。

★今までの受賞企業から、受賞したことにより、契約数の増、広告効果(知名度・ブランド力向上)、研究の発展・加速などに効果があったとの評価が寄せられています★

応募方法

公式ウェブページから応募エントリー

エントリー期間:2023年11月29日(水)~2024年4月12日(金)

応募用紙をダウンロードし必要事項を記入

応募用紙とロボットの動作が確認できる
動画データ等の資料を郵送

応募期間:2024年2月19日(月)~4月12日(金)

応募完了

審査方法

一次審査

(書類審査)

二次審査

(現地調査及び応募者プレゼンテーションに基づく審査)

表彰式

2024年9月18日(水)予定

各種お知らせメール登録
お申し込み受付中!

「ロボット大賞」

詳細は「ロボット大賞」ウェブサイトにてご覧ください。

🔍 ロボット大賞

検索

「ロボット大賞」公式ウェブサイト ▶ <https://www.robotaward.jp/>

「ロボット大賞」運営事務局 ▶ E-mail info@robotaward.jp

共催 | 経済産業省(幹事)、一般社団法人日本機械工業連合会(幹事)、
総務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、国土交通省



このリーフレットは、競輪の補助により作成しました。

第1回～第10回ロボット大賞では121件の優れたロボット、部品・ソフトウェアが表彰され、社会の幅広い分野で活躍しています。

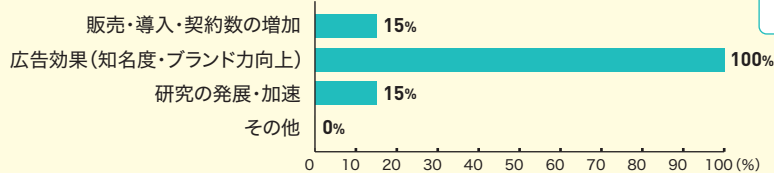
・第10回 ロボット大賞 受賞ロボット紹介・

<p>経済産業大臣賞</p>  <p>モバイルロボットLD/HDシリーズ オムロン株式会社</p>	<p>総務大臣賞</p>  <p>水空合体ドローン 株式会社KDDI総合研究所/ KDDIスマートドローン株式会社/ 株式会社プロドローン</p>	<p>文部科学大臣賞</p>  <p>トイオ toio™ 株式会社ソニー・ インタラクティブエンタテインメント</p>	<p>厚生労働大臣賞</p>  <p>hinotori™ サージカルロボットシステム 株式会社メディカロイド</p>
<p>農林水産大臣賞</p> <p>自動収穫ロボットを活用した 再現可能な農業の実現 AGRIST株式会社</p> 	<p>国土交通大臣賞</p> <p>切羽作業を機械化する 山岳トンネル施工ロボット 大成建設株式会社/ 前田建設工業株式会社/ 古河ロックドリル株式会社/ マック株式会社</p>  <p>ロックボルト専用ロボット[BOLTINGER] 施工状況 鋼製支保工建込みロボット</p>		
<p>中小・ベンチャー企業賞 (中小企業庁長官賞)</p> <p>惣菜盛付ロボット 「Delibot™」 コネクテッドロボティクス株式会社/ Team Cross FA</p> 	<p>日本機械工業連合会 会長賞</p> <p>X-Area ロボット配送サービス パナソニック ホールディングス株式会社/ Fujiisawa SSTマネジメント株式会社</p> 	<p>日本機械工業連合会 会長賞</p> <p>ケーブル認識用 3Dビジョンセンサー KURASENSE 倉敷紡織株式会社</p> 	
<p>優秀賞 (社会インフラ・災害対応・消防分野)</p> <p>トンネル点検システム 「iTOREL」 東急建設株式会社/東京大学/ 湘南工科大学/東京理科大学/ 株式会社小川優機製作所/ 株式会社菊池製作所</p> 	<p>優秀賞 (ICT活用分野)</p> <p>小規模土木工事現場のICT施工 株式会社EARTHBRAIN</p> 	<p>優秀賞 (ビジネス・社会実装部門)</p> <p>介護用パワーアシストスーツ ジェイブス フレアリー J-PAS fleairy 株式会社ジェイテクト</p> 	
<p>優秀賞 (研究開発部門)</p> <p>力制御可能な全身人型ロボット 「Torobo」 東京ロボティクス株式会社</p> 	<p>記念特別賞</p> <p>アザラシ型 メンタルコミットロボット「ハロ」 株式会社知能システム/ 国立研究開発法人産業技術総合研究所/ マイクロジェニックス株式会社</p> 	<p>記念特別賞</p> <p>移動ロボット用の 小型軽量な測域センサー URGシリーズ 北陽電機株式会社</p> 	

「第10回ロボット大賞」受賞者アンケート調査

「第10回ロボット大賞」受賞企業・団体へ受賞後のアンケート調査を行い、下記の回答をいただいております。(16社・団体より回答)

「ロボット大賞」を受賞したことで、どのような効果がありましたか(複数回答可)



顧客との話題に上がることも多く
問合せが入るようになった

採用活動において信頼性が高まり、
優秀なエンジニアを採用する際に
PRできるものになっている

色々な媒体からの取材時に
受賞の件についても質問があり、
広告効果を実感いたしました

受賞者の声

受賞について触れることで、
相手に好印象を与えている
との感触を得ています

受賞展示で弊社開発ロボットの活用検討の
お客様との接点が増えました

共催: 経済産業省(幹事)、一般社団法人日本機械工業連合会(幹事)、総務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、国土交通省
協力: 独立行政法人中小企業基盤整備機構、国立研究開発法人科学技術振興機構、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国立研究開発法人情報通信研究機構、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構、国立研究開発法人森林研究・整備機構、森林総合研究所、国立研究開発法人水産研究・教育機構、国立研究開発法人日本医療研究開発機構、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構、地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター、公益社団法人計測自動制御学会、公益社団法人自動車技術会、公益社団法人精密工学会、公益社団法人日本食品科学工学会、公益社団法人日本船舶海洋工学会、公益社団法人日本ベントリ振興協会、公益社団法人日本リハビリテーション医学会、公益社団法人テクノエイド協会、公益財団法人医療機器センター、一般社団法人i-RooBO Network Forum、一般社団法人映像情報メディア学会、一般社団法人再生医療イノベーションフォーラム、一般社団法人人工知能学会、一般社団法人電子情報通信学会、一般社団法人日本医療機器産業連合会、一般社団法人日本機械学会、一般社団法人日本建設機械施工協会、一般社団法人日本義肢装具学会、一般社団法人日本原子力学会、一般社団法人日本建設機械工業会、一般社団法人日本航空宇宙学会、一般社団法人日本コンピュータ外科学会、一般社団法人日本産業車両協会、一般社団法人日本食品機械工業会、一般社団法人日本人間工学会、一般社団法人日本農業機械化協会、一般社団法人日本農業機械工業会、一般社団法人日本包装機械工業会、一般社団法人日本UAS産業振興協議会、一般社団法人日本リハビリテーション工学協会、一般社団法人日本ロボット学会、一般社団法人日本ロボット外科学会、一般社団法人日本ロボット工業会、一般社団法人日本ロボットシステムインテグレーション協会、一般社団法人ライフサポート学会、一般社団法人林業機械化協会、一般社団法人日本生活支援工学会、一般社団法人日本計量機器工業連合会、一般社団法人日本工作機械工業会、一般社団法人日本産業機械工業会、一般社団法人日本自動車工業会、一般社団法人日本電機工業会、一般社団法人日本電気制御機器工業会、一般社団法人日本食品工学会、一般社団法人日本福祉用具・生活支援用具協会、一般社団法人日本物流システム機器協会、一般財団法人橋梁調査会、一般財団法人先端建設技術センター、社会福祉法人全国社会福祉協議会、特定非営利活動法人国際レスキューシステム研究機構、建設無人化施工協会、一般社団法人農業食料工学会、ロボット革命・産業IoTインシニアティブ協議会、サービス学会、サービス産業生産性協議会、特定非営利活動法人横断型基幹科学技術研究団体連合、日本介護用入浴機器工業会(67団体、順不同)